

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		看護活動と倫理		担当講師名	専 任 教 員
学 科 名	学 年	クラス	時間数	授業方法	実 施 時 期
第一看護学科	3年	AB	15	講義	令和5年前期
科目目標 看護活動における倫理の意義と倫理的課題へのアプローチ方法を理解する。 1 看護活動における倫理の意義を理解できる(1・2回目)。 2 看護倫理の歴史について理解できる(2回目)。 3 徳の倫理、倫理の原則について理解する(3回目・4回目)。 4 看護研究における倫理について理解できる(5回目)。 5 職業倫理について理解できる(5回目)。 6 看護活動場面での倫理的問題について理解する。(6回目) 7 看護活動場面での倫理的問題を分析し、そのアプローチについて意見を述べる事ができる(6・7回目)					
授業概要 看護倫理は、看護師の看護活動の基盤をなすものです。具体的な事例などから、看護倫理の原則や課題解決方法について考え、倫理的感受性や道徳的思考を育みます。					
	時間数	授 業 内 容			
1	2	看護活動における倫理の意義 看護倫理の基礎 看護倫理とは			
2	2	看護倫理の歴史的推移			
3	2	看護倫理のアプローチ 徳の倫理 ケアの倫理 原則の倫理			
4	2				
5	2	看護研究と倫理 看護職の倫理的責任・法的責任 看護者の倫理綱領			
6	2	看護場面における倫理 看護場面での倫理的問題の特徴 倫理的意思決定のためのモデル			
7	2	【演習】事例検討と発表①			
8	1	【演習】事例検討と発表②			
テキスト・参考書 1) 看護倫理 よい看護、よい看護師への道しるべ、南江堂 2) 新体系看護学全書 看護学概論 メヂカルフレンド社 2017.				成績評価の方法 ■ 筆記試験 ■ レポート課題	

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	急性期・終末期にある成人の看護			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時 間 数)	授 業 の 種 類	実 施 時 期
第一看護学科	3年	実習G	2(90)	実習	令和5年前期・後期
科目目標 健康障害を持った人を身体・心理・社会的側面から理解し、あらゆる健康レベルにある対象とその家族に対して、適切な看護を実践する基礎的能力を養う。 急性期及び終末期にある対象を理解し、身体機能の低下への援助や苦痛の緩和への援助ができる。					
授業概要 病棟へ実習に行き、受け持ち患者との関わりをとおして学ぶ。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	1 生命の危機や全人的苦痛がある対象の理解 2 機能障害に伴う症状の観察と判断 3 機能障害が日常生活に及ぼす影響の理解 4 苦痛の観察と判断、緩和のための援助 5 身体機能の低下への支援や安楽、尊厳を守るための日常生活援助 6 生命の危機、苦悩・不安を抱える患者への治療的コミュニケーションを活用した援助 7 検査・治療のための援助			
2	7.5				
3	7.5				
4	7.5				
5	7.5				
6	7.5				
7	7.5				
8	7.5				
9	7.5				
10	7.5				
11	7.5				
12	7.5				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	健康障害のある老年者の看護Ⅱ			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	3年	実習G	2(90)	実習	令和5年前期・後期
科目目標 老年期にある対象とその家族の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護の基礎的能力を養う。 健康障害のある高齢者が受けている治療内容を理解し、健康回復（安らかな死）への看護が実施できる。					
授業概要 病棟へ実習に行き、受け持ち患者との関わりをとおして学ぶ。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	1 高齢者の特徴の総合的理解 2 健康障害や治療が高齢者に与える影響 3 高齢者の特徴やQOLをふまえた計画 4 高齢者の健康障害や健康レベルに応じた看護実践 5 高齢者の倫理 6 高齢者の家族の理解			
2	7.5				
3	7.5				
4	7.5				
5	7.5				
6	7.5				
7	7.5				
8	7.5				
9	7.5				
10	7.5				
11	7.5				
12	7.5				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	小児の保健			担当講師	専任教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	3年	AB	1(45)	実習	令和5年前期・後期
科目目標 発達段階や健康段階に応じた小児やその家族への看護を実践する基礎的能力を養う。 小児の健全な成長・発達の促進, 健康の維持・増進のための援助の実際を知る。					
授業概要 保育所や小児外来へ実習に行き、子どもやその家族の反応をとおして学ぶ。 保育士や外来看護師の関わりをとおして成長・発達を促す看護師の役割について考える。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	I 保育所実習 (4日間) 1 乳幼児の成長・発達の観察や判断 2 成長・発達を促すための保育や遊びの実際 3 安全教育・安全管理の実際			
2	7.5				
3	7.5				
4	7.5				
5	7.5	II 小児科外来実習 (4日間のうちの2日間) 1 外来診療における看護の実際 2 小児の保健指導の実際 3 社会資源の活用・継続看護の実際			
6	7.5				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	健康障害のある小児の看護			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	3 年	AB	1 (45)	実習	令和5年前期・後期

科目目標

発達段階や健康段階に応じた小児やその家族への看護を実践する基礎的能力を養う。
健康障害のある子どもとその家族に対して、発達段階を考慮した健康回復への援助ができる。

授業概要

小児病棟、小児外来へ実習に行き、受け持ち患児やその家族との関わりをとおして学ぶ。

回数	時間数	授 業 内 容
1	7.5	<臨地実習> 病棟実習 (4日間) / 外来実習 (2日間) 1 症状の観察と判断 2 成長・発達や家族に及ぼす影響の理解 3 健康回復の促進と苦痛症状の緩和への援助 4 発達段階に応じた安全・安楽な日常生活への援助 5 治療への主体的な参加を促すための援助 6 ストレスや不安に対する援助 7 家族への援助
2	7.5	
3	7.5	
4	7.5	
5	7.5	
6	7.5	

【成績評価の方法】

実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	妊婦・産婦の看護			担当講師	各実習担当教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	3年	実習G	1 (45)	実習	令和5年前期・後期
科目目標					
妊娠・分娩・産褥各期の母性及び新生児に対して適切な看護を実践する能力を習得する。 正常な妊娠・分娩経過を理解し、妊婦・産婦に必要な援助ができる。					
授業概要					
6日間、病棟や母性外来に行き、正常な妊娠経過や診察、妊婦に必要な生活指導など看護の実際を学ぶ。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	1 妊婦の看護 (1) 正常な妊娠経過の観察 (2) 妊婦の健康診査と診察介助 (3) 妊婦に必要な日常生活指導 (4) 分娩前教育 (5) 妊娠の異常と看護 (6) 社会資源の活用 2 産婦の看護 (1) 母児の健康状態・分娩経過の観察 (2) 産婦の心理状態の観察 (3) 産痛緩和への援助 (4) 日常生活への援助			
2	7.5				
3	7.5				
4	7.5				
5	7.5				
6	7.5				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	褥婦・新生児の看護			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	3年	実習G	1 (45)	実習	令和5年前期・後期

科目目標

妊娠・分娩・産褥各期の母性及び新生児に対して適切な看護を実践する能力を習得する。

授業概要

6日間病棟に行き、褥婦と新生児の受け持ちをとおして必要な援助を学ぶ。

回数	時間数	授 業 内 容
1	7.5	1 褥婦の看護 (1)産褥経過の観察と判断 (2)産褥期の性器及び全身復古への援助 (3)母乳分泌促進への援助 (4)育児技術獲得への援助 (5)母子関係確立への援助 (6)社会資源の活用 2 新生児の看護 (1)新生児の観察と判断 (2)胎外生活適応への援助 (3)育児技術
2	7.5	
3	7.5	
4	7.5	
5	7.5	
6	7.5	

【成績評価の方法】

実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	精神に障害のある人の看護			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	3年	実習G	2(90)	実習	令和5年前期・後期

科目目標

精神に障害のある人のありのままを理解し、特徴に合わせた看護を実践するための基礎的能力を修得する。また、地域で生活する精神に障害のある人の理解を深める。

授業概要

1. 3日間、精神に障害のある人の就労施設に行き、地域で生活する精神に障害のある人を理解する。
2. 9日間、精神病棟へ実習に行き、受け持ち患者との関わりをとおして学ぶ。

回数	時間数	授 業 内 容
1	7.5	1 精神に障害のある人の理解 2 精神症状と看護 3 日常生活の障害と看護 4 治療・検査と看護 5 対人関係の振り返りを通じた必要な看護 6 治療的コミュニケーションを活用した援助 7 地域で生活する精神に障害のある人の理解 8 地域精神保健活動と社会資源の理解
2	7.5	
3	7.5	
4	7.5	
5	7.5	
6	7.5	
7	7.5	
8	7.5	
9	7.5	
10	7.5	
11	7.5	
12	7.5	

【成績評価の方法】

実習評価表に基づいて評価を行う。